39 テーマ別 漢文・漢詩

標準問題

出題傾向
- 漢文や漢詩は、白文や訓読文に限らず、書き下し文の形で出題されることも多い。
- 日本の古典である古文とは異なる言い回しに慣れておこう。

1 次の文章は、漢文を書き下し文にしたものです。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、問いの都合上、漢文（原文）のままの部分があります。〈岐阜〉

康（*かう）、家貧にして油無し。常に雪に映して書を読む。少小より清介にし（若い頃から潔癖で）、孫康は（雪明かりに照らして書物を）①交遊不雑。後に御史大夫に至る。（優れた人を選んで交際した／副首相）

晋の車胤（*しゃいん）字は武子、南平（なんぺい）の人なり。（別名／南平郡の人）恭勤（きょうきん）にして倦（う）まず、博覧多通なり。（まじめで努力をおこたらず、書物を多く読み、物事をよく知っていた）家貧にして常には油を得ず。夏月（かげつ）には則ち②練嚢（れんなう）に数十の蛍火（けいか）を盛り、（柔らかな絹の袋にたくさんの蛍を入れて）以て書を照らし、夜を以て日に継ぐ。（いつも灯火の油を得られる夏は／とは限らなかった／昼に続いて夜も読んだ）

（注）康＝古代中国の政治家。
車胤＝古代中国の役所の長官。

〈「蒙求（もうぎう）」より〉

(1) ——線①「交遊不雑」は、「交遊雑ならず」と読みます。このように読むことができるように返り点と送り仮名を付けたものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 交遊不レ雑（ナラ）　イ 交遊二不雑一（ナラズ）
ウ 交遊不レ雑（ナラズ）　エ 交遊レ不レ雑（ナラ）

□

(2) ——線②「練嚢に数十の蛍火を盛り」とありますが、車胤が蛍を練嚢に集めたのは何のためですか。それについてまとめた次の文の□に当てはまる言葉を、「灯火の油」「照らして」という二つの言葉を使って、三十五字以上四十字以内の現代語で書きなさい。

▪夜も書物を読みたいのに、□ため。

35

(3) この話をもとに「蛍雪の功」という故事成語が作られました。その意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 変化する自然の象徴　イ きわめて密接な関係
ウ 弱くて壊れやすい存在　エ 苦労して学んだ成果

□

2　次の漢詩を読んで、後の問いに答えなさい。

江楼（*かうろう）にて感を書す　　趙嘏（てうか）

独リ①上レバ江楼ニ思ヒ渺然（*べうぜんタリ）

月光如レ水ノ水連レ天ニ

同来（ともニきたツテ）*もてあそビシ翫レ月ヲ人ハ何（*いづレノ）処（ところゾ）

②風景依（*よ）稀（きトシテ）似タリ二去年一ニ

独り江楼に上れば思ひ渺然たり

月光水のごとく水天に連なる

同に来つて月を翫びし人は何れの処ぞ

風景依稀として去年に似たり

（注）　江楼＝川辺にある高い建物。
渺然＝はるかに、果てしないこと。
翫＝心の慰（なぐさ）めとして愛好する。
何処＝どこ。
依稀＝よく似ているさま。

〈群馬〉

(1)　この漢詩の詩型として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　五言絶句　　イ　五言律詩
ウ　七言絶句　　エ　七言律詩

□

(2)　――線①「上レバ江楼ニ」に、書き下し文を参考にして返り点を付けなさい。

上レバ江楼ニ

(3)　――線②「風景依稀トシテ似タリ二去年一ニ」とありますが、この句の効果を、詩の内容を踏まえて説明したものとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　去年と変わっていない美しい風景によって、晴れ晴れとした作者の気持ちをたとえている。
イ　変わることなくどこまでも続く風景を描き、小さなことに悩む人間のつまらなさと対比している。
ウ　再び去年と同じ風景が見られることを述べ、作者のおかれた状況にも変化がないことを暗示している。
エ　去年と変わらない風景が目の前に広がっていることを述べ、一人残された作者の孤独な思いを強調している。

□

アドバイス　漢文では、読み方（書き下し文）に合うように返り点を付けさせる設問が頻出。問題文には書き下し文があることが多く、返り点にしたがって漢文（訓読文）を読まなければならないことはあまりないが、レ点や一・二点の使い方は正しく覚えておこう。